

氷上地域同学年人権・同和教育研修会 5年生授業研究事前資料

丹波市立西小学校 細見隆昭

1 実践の概要

地域の発展のため、新田開発につくした先人のとりくみを紹介する「町の石ひ」は、昔の葛野と様子が似ており、児童も共感できるストーリーである。しかし、この教材から部落差別の実態はやや読み取りにくい。そこで、工事の様子を記した地図を丁寧に読み取ることで差別の実態を明らかにしようとした。また、立ち上がった村人の気持ちを「希望」「まよい」「あきらめ」の3段階で表現させ、その理由を述べることで、先人の苦労や願いに気付かせようとした。

2 教材名 「町の石ひ」(ほほえみ)

3 対象 5年生 20名

4 ねらい

- ・地域の発展の歴史とそれにつくした先人の苦労や願に関心を持たせ、地域の一員としての自覚を高め、地域の発展につくそうとする。
- ・わたしたちの生活がそのような先人たちの働きによって支えられていることを理解する。

5 指導計画

時数	内容
1時	教材を音読し、難語句を確認する。感想を交流する。
2時	時代を追って工事の様子を読み取り、地図に記入する。
3時	村人の気持ちを3段階で表現し、その理由を述べる。
4時	村人はなぜ立ち上がったのか考える。

※4時は2007年10月20日(土)本校人権教育参観日にて実施した。

6 教材の系統

○4年生総合

「葛野の水は未来に流れる」



○5年生道徳

町の石ひ → みんなの秋祭り



○6年生道徳

人の世に熱あれ、人間に光あれ

氷上水平社の創立

7 実践の内容

(1) 1時 教材との出会い

これから「町の石ひ」を学習することを告げ、児童に段落読みをさせた。その後、ページごとに難語句を確認した。

石碑…石造の碑。石に分を刻んで建てたもの。
 高台…地面が高くて平たいところ。
 ずい道…山腹や地中をうがって通した道。あなみち。トンネル。
 小作…地主から土地を借り、小作料を払ってその土地を自ら耕作し、農業を営むこと。
 地主…土地の所有者。

むしろ…わらであんだしきもの。
新田…新たに開墾した田地。特に江戸
時代のものをいう。

表 1 児童が指摘した難語句

その後、初発の感想を話し合った。
そこでは、「村人の協力がすごい」や
「平右衛門が村のためにがんばっ
た」「昔の葛野によく似ている」とい
う意見が出された。(詳細記録は別紙
1を参照)

「昔の葛野によく似ている」とい
うのは、4年生のとき、三原にある
細見池の壮大な物語を学習したから
出た言葉である。なんとか水を確保
し、米作りがしたいという先人のが
んばりを、この「町の石ひ」でも感
じていた。この教材と昔の葛野と似
ている点を話し合った。

(2) 工事の様子を読み取る



図 1 工事の様子を記した地図

ほほえみ P2 1 の地図を A4サイ
ズに拡大、モノクロ印刷し、ワーク
シートとして児童に配布した。その
後、工事の工程を一つずつ確認しな
がら、地図に書き込みを行った。確
実な読み取りを行うため、細かな指
示を行い、スモールステップで学習
を進めた。

指示 1 : 村の境をフェルトペンでな
ぞろう。

児童 : どこが境かわかりません。
教師 : 点線の部分です。村はいくつ
ありますか。

児童 : 3つです。

教師 : どの村の話ですか。

児童 : 真ん中の村の話です。

指示 2 : 山すその荒地があったとこ
ろに緑色をぬろう。

指示 3 : 谷の池を青色にぬろう。

発問 : 谷の池はどの村の持ち物です
か。

児童 : 隣の村の持ち物です。

指示 4 : ずい道を赤色でぬろう。

指示 5 : ずい道から引いた水を田ん
ぼに流す用水路を青色にぬろう。

指示 6 : 大水になって、水浸しにな
る場所を指で示そう。

児童 : 村中が水びたしです。

指示 7 : よ分の水をためておくため
池に青色をぬろう

児童 : どこのため池かわかりません。
教師 : 地図に書いてある「新しく作

ったため池」です。

きた「新田」に緑色をぬろう。

指示8：工事が始まって10年で



図2 教材前半の村人の気持ちを示した3時間目の板書

(3) 村人の気持ちを表現する

村人の気持ちを「希望」「まよい」「あきらめ」の3段階にわけた。そして、教材を5つの場面にわけ、それぞれの場面の村人の気持ちを「石ひカード」の位置で表現しようとした。つまり、カードの位置が黒板上部にあるほど、村人の気持ちが高まっているとし、中間はまよい、下部はあきらめの気持ちであるとした。

また、児童は意見を発表するとき村人の気持ちがどのあたりであるかを言

ってから、その理由を説明するように促した。この手立てにより、教室内で対立意見が出やすくなり、活発な議論ができるようになった。それは次の発言からも確認できる。「〇〇くんは、『楽になる』(希望)と言いましたが、私は『あきらめ』だと思えます。理由は、田にするための道具が無いからです」、「私は『まよい』だと思えます。自分の米が作れるという希望もあるし、田ができて水がないという『あきらめ』もあるからです」



図3 教材後半の村人の気持ちを示した4時間目の板書

(4) 村人はなぜ立ち上がったのか

本時は、教材後半部分を取り扱った。「一人であれ地をほり起こす」場面は、

「まよい」だという意見になった。その中で、「大水の時、わたらの村がつからんよう、あんたらの村にいっぱい水を流

す」という記述に注目した児童がいた。これが部落差別である。この不公平な条件に児童は憤りを見せたが、逆に水がもらえることに希望を感じているという意見も出た。

そして、「大水になり、村中が水びたしになった」ときの気持ちを話し合った。そこでは水をこちらの村に流した「隣村を憎く思う」という発言もあった。村人があきらめの気持ちになっていることに、全員の意見が一致した。

最後、「新田がようやくできあがった」という村人の「希望」に満ち溢れている場面を話し合った。そのとき、3つの場面の気持ちを青色チョークで折れ線グラフのようにつなぎ、村人の気持ちの変化をわかりやすく整理した。

発問：あきらめのどん底から村人がなぜ立ち上がったのだろうか。ワークシートに記入しましょう。

- ・村人全員が田を作るという希望を持っていたから。
- ・年寄りが励ましてくれたから。
- ・お米が自分たちのものになるから。
- ・最後まであきらめなかったから。



図4 ワークシートを記入する児童

8 実践のまとめ

(1) 成果

- ・工事を地図に記していくことで、先人の苦労を読み取ることができた。
- ・5つの場面でそれぞれ村人の気持ちを「希望」「まよい」「あきらめ」に分類することで、学級内の話し合いを活発にした。また、村人の心情の変化をわかりやすく示すことができた。
- ・水をもらうための不公平な条件に気づき、部落差別を学習するきっかけを得ることができた。
- ・これまでに総合的な学習の時間で学習した内容と関連づけて考えることができた。

(2) 課題

- ・教材からは、部落差別のきびしい実態やそれに立ち向かう人の努力を感じさせることが難しかった。
- ・教材の読み取りに時間をかけたため、4時間扱いになった。すべての場面を取り扱う必要はなく、授業のねらいに応じて柔軟な展開が必要だったかもしれない。
- ・「みんなの秋祭り」や、6年生における「氷上水平社」など、同和教育と直結する教材については、保護者や地域との連携を進めながら慎重に取り組むを進めていきたい。

別紙1 初発の感想

発問1：感想を聞かせてください。

- ①村人は荒地を新田にかえるまですごく努力をした。自分ならできない。
- ②一人が工事をやり始めたらみんなが協力する。工事は10年かかるほどのすごい作業だとわかった。
- ③一人の平右衛門が村人に田を作ろうと呼びかけた。地主にお金をあげないといけなかったが、田を作ると自分のものになる。なかなかできないこと。
- ④平右衛門はすごいと思った。まわりの

人が手伝うのもすごい。昔の葛野によく似ているなあと思った。

- ⑤平右衛門は一人でした。他の人も協力したから新田ができた。協力するとすごいことができる。
- ⑥平右衛門が、荒地を新しい田にしようと提案した。道具がないのでどうするのかと否定していた。一人でもしたのがすごい。
- ⑦平右衛門一人でやっていたが、最後は10年もかけて村全体でとりくんだのがすごいと思った。
- ⑧子供たちも大人を助けて、10年もかけて新田を作ったのがすごい。
- ⑨平右衛門はすごい。新田を作るためにたくさんの人が協力した。やっぱり葛野みたいに米がほしかったんだと思った。
- ⑩ぼくたちみたいな子どもが20になるまで、小石をひらったりしている。大人も10年たつと年をとる。相当疲れる。平右衛門がやりはじめてから10年たったが、やっと思っていたことが実現した。
- ⑪はじめは平右衛門がいないときは、小作をしていた。作った米が全部もらえるわけではない。平右衛門が来てから新しい田んぼを作った。米が全部もらえた。これは平右衛門のおかげ。
- ⑫水がないから田ができないと反対された。10年たつと米がとれるようになった。
- ⑬平右衛門は、最初山すその荒れた土地をなんとかできないかと思った。それから村人の協力で新田ができた。村人の協力はすごい。
- ⑭最初は平右衛門が話がまとまらなくて一人でやっていた。その姿を見て村人が協力しているところがすごい。昔は苦勞していた。今より昔のほうがよ

く親しみがあつたのか。

- ⑮20ページのところで、「昼も夜もなく荒地を切り開く」とある。昼も夜も休まずに荒地を耕しているのはすごいと思った。
- ⑯最初は平右衛門が一人でやっているうちに周りの人が手伝って、池やトンネルや新田を作ったのがすごいと思った。
- ⑰兵右衛門は最初自分一人で作ろうとしたのはすごいと思った。それを見て、村人が協力して、10年かけて新田を作り上げたのがすごい。

発問2：むかしの葛野とどこが似ているのか。

- ①昔の葛野は水がなくて米が作れなかった。
- ②水がなくて、米ができない。水をためるため池を作って、全部最初から作っていったところが似ていると思った。
- ③だいたい、ささいのぶたろうさんと平右衛門さんが似ている。
- ④葛野は工事しても失敗した。佐々井信太郎さんが来て、水や米をいっぱいにするところが似ていると思った。
- ⑤葛野もみんなで話し合いをしているところが似ている。
- ⑥葛野も荒地で何もなかったところで、地域の人たちが話しあいをして田を作ろうとした。話し合いの場面や新田を作ったところが似ている。
- ⑦なかなか話がまとまらななんだと書いてある。葛野もなかなかまとまらなかった。
- ⑧細見池を作るときも同じ。ため池を作るまでにはいろいろな話し合いや反対があつた。最後にはお米を食べたいということでため池を作ったところが、葛野と同じだと思った。